

教育目標	自分を律し、認め会える集団の中で意欲的に学ぶ子の育成					総合評価		
運営方針	美しく清潔感あふれる学校・明るく活気あふれる学校・楽しく信頼される学校・静かで規律ある学校の具現化を目指して教職員の共通理解のもと、家庭や地域との連携を図りながら教育に取り組む。							
平成29年度の成果と課題	本年度の重点目標	具体的目標						
○めあての提示から振り返りまでの授業の定型化ができ、中学校との連携も交えながら、学力の向上に焦点をあてた取り組みができた。 ○読書活動活性化については、環境整備はもちろんのこと、子どもの読書への関心、具体的な冊数の増加が顕著に見られた。●ゴールを明確にした、話し合い活動をしっかりとする事で何のために話し合うのかを考えながら、議論を深めるべき。●児童自らが読書を「楽しいもの」と感じるような仕掛けのために、図書館司書とも連携し、図書室から教室に向かうような取り組みをしたい。	志 ◎読解力を基盤に、確かな知識・技能をもち、自ら考え、友達の意見を聴くことができる児童を育てる。	○ICTを効果的に活用した分かる楽しい授業づくり ○相手意識をもって自分の考えを分かりやすく話し、関心をもって相手の話を聞く授業づくり ○読書活動の活性化				B		
	心 ◎自らを律し、認め合える集団の中で、意欲的に学び、思いを正しく表現できる児童を育てる。	○活躍の場としての縦割り活動を活性化する。 ○「あすへ」の意識を徹底させる。(挨拶・スリッパ・返事) ○心をたがやす「道徳の時間」の充実						
	体 ◎健康や防災・防犯に関心を持ち、進んで体を動かし、粘り強く頑張る児童を育てる。	○自らの健康や食べることへの関心を高める ○運動への興味・関心を育て、体力向上を図る ○防災や防犯に関する関心・態度を高める指導の充実						
	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策		
志	分かる楽しい授業づくり	児童自らが主体的に参加し、仲間と深く考えながら解決に取り組む授業の展開。	B	B	ペアやグループ学習、学級会等主体的に話し合いを行う機会を設けた。しかし表面的で自分と他人の意見の比較や考えを深めるところに課題が残る。	グループ活動をより実施しやすい環境の整備。効果的に見せるための機材が整っていない分、提示の仕方工夫がより一層必要である。また、野原の特色をより強く打ちだしたふろさと学習に力を入るとともに、読書については、授業との関連性をもった取組を考え、更に読書好きな子どもを育てたい。	目標に対して的確に取組を行い結果に繋げることができている。ICT機器の活用については、どのクラスにおいてもスクリーンやプロジェクターなどを効果的に活用できている。	
		個に応じた指導で意欲を高め、学力向上を図る。	B		支援教員による個々へのフォローや放課後勉強会を実施。全体の基礎学力向上という点においては課題が残るが、保護者の要望に合わせて個別の課題に取り組んだ。			
		効果的なICT機器の活用。	B		プロジェクターやiPadを活用し効果的な教材提示によって視覚的に分かりやすい授業が展開できた。また児童全員が前を向くことの習慣づけにつながっている。			
	野原で生きるふるさと学習	中学校との連携を含めた、ふるさと学習の導入と教材の開発。	B	B	校区を探検クイズや看板作りを通して自分たちの住んでいる地区の新しい側面をみつけ楽しんで学ぶなどの学習を行った。中学校とも連携した取組もできた。			
ことばに向き合う話す聞く	ポレポレや図書室の活用、家読を通しての読書活動の活性化。	A	A	毎週の図書室利用や毎朝のポレポレタイムで本を読む時間を確保できた。また、図書委員会が中心となり司書と協力しながら読書リレーや読書クイズなどを企画した。教材に則した平行読書にも取組み、教材のより深い学びにつなげることが出来た。				
	関心をもって友達の意見を聴き、相手に届くように話せる子の育成。	B		全校朝礼のスピーチ集会やボエム集会を実施し、相手に伝えることを意識して指導した。また、聞く側も感想や質問を添えるようワークシートを作り、伝える力を高めるよう指導した。				
心	支え合う学級づくり	自己有用感を得られるような活動の展開。アンガーマネジメントを通して。	A	A	表情シートを活用し、自分の気持ちを説明するのが苦手な児童に寄り添う指導を実施。リフレーミングや「あなたにプレゼント」の学習で自己有用感を高め合う環境も作った。	授業が単発にならないよう見直しを持ち計画的に進めていくこと、活動がマンネリ化しないよう子ども達の意見を積極的に反映させていくことも必要。また、「あすへ」の継続的な取り組みを、職員全員の一貫した指導により、徹底して子どもに指導していく。	教員との信頼関係がきちんとできており、コミュニケーションがとれているため、高学年においても、恥ずかしからず、何事にも積極的に取り組んでいる。	
	自らつくる特活	遊びの杜、集会活動を通して主体として活動できる児童の育成。	A	B	自分と異なる学年とのふれあいを通じて、高学年への態度や、低学年への責任を自覚する環境作りを行った。また、高学年がする活動の見直しを持たせることが出来た。係活動や学級活動を通して、児童自ら主体的に遊びなどを提案・企画した。			
	心をそろえる生徒指導	あいさつ、スリッパ、返事を意識し行動できる児童の育成。	B	B	クラスでのルール徹底や全校朝会での声かけを行った。			
	心をたがやす道徳	年間計画に基づきながら、考えを深め合う道徳教育の実施。	B	B	行事等で予定通りに進められない場合もあるがおおよそ年間計画に基づいて実施することができた。			
体	食べることは生きること	食育に取り組み、自らの食への意識を高める。	B	A	野菜の苗植えや収穫等、食材にふれあう機会を設けた。健康・運動委員会の「おこし調べ」により完食への意欲を高め、給食を作ったさる方々への感謝の気持ちも繰り返し意識つけた。	食に関する取り組みは、児童一人一人が感謝し無駄なくいただく意識が徹底するよう継続した指導を行う。また、命については各地の様々な災害を認識しながら、訓練であっても真剣に最後までやりきる取組も継続していきたい。	南海トラフ地震にそなえた真剣な避難訓練や、不審者対応の訓練を計画的に行っています。虹色畑を有効活用し、食に対する感謝の気持ちをしっかりと持てているように思えます。	
	体づくり遊びづくり	外遊びチャレンジに参加し、多様な遊びから体力向上を図る。	A		A			外遊び・みんなでチャレンジを計画的に実施することが出来たが、その結果として全体の体力向上につながったかという点においては課題が残る。
	守れいのち	避難訓練の実施と防災・防犯意識を育む事前事後指導。	A		A			全校で統一した事前・事後指導を行った。自分の命の大切さや災害の怖さも合わせて指導した。
輪	小中の連携	9年間を見通した教育活動推進のための具体的な活動	B	B	保幼小中の職員間の交流授業により、互いに情報を共有出来た。中学生が小学校を訪問しカルタ大会や絵本読み聞かせをする活動を通して、児童間でも今後の見直しを持たせることが出来た。	職員の間での十分な意見交換の時間を確保するとともに、9年間を見据えた、各教科での交流や、ふるさと学習での連携も徹底していきたい。学校と家庭が密に情報を発信出来るよう心がけていきたい。	15年間を見通した教育の実現のためにも、幼・保との連携も確かなものにしていきたい。ボランティアの活動については、自治会等を上手く活用して、発信すれば色々な取組につながることが出来る。	
	地域連携への具体的な取組	ボランティアの導入と効果的な活用。	B		夏休みの補習では沢山のボランティアが来て下さり、少人数で、個に応じたきめ細かい指導が出来るようになった。また、朝の時間の絵本の読み聞かせにも協力してもらったなど、様々な場面で積極的に地域の知的財産を活用させていた。			
	情報発信	HPやブログ、通信や「はぐくむ」を活用し保護者に届く情報発信の工夫。	A		月一回の学級通信や週一回の通信などで児童の様子を家庭に発信することが出来た。また、ブログを通して学校全体の子どもの活動の様子を発信した。			